

(事務局)

開会に先立ちまして、皆様に一言お願いをさせて頂きたいと思います。本日、本審議会の傍聴を希望の方がいらっしゃいますので、開会に先立ちまして、委員の皆様にお諮り致したいと思います。

本審議会でございますけれども、会議の公開について特段の定めはございませんが、傍聴の希望がございますので、傍聴されることについてご意義がないということについてお諮りをしたいと思います。傍聴について、よろしいでしょうか。

<各委員「異議なし」>

ありがとうございます。ご異議なしとのことですので、本審議会を傍聴されることについてご了解をいただいたものと致します。

また、本審議会のご意見を記録するため、事務局におきまして音声の録音及び写真の撮影、また傍聴者の方から写真の撮影の希望がございますので、録音等をさせていただきますこと、また、本審議会のご意見をホームページ等で公開することにつきましてご了解をいただきたいと思ひます。

1 開会

(事務局)

それでは、ただいまから第1回三次市総合計画審議会を開催致します。

本日は大変ご多忙のところ、ご出席を頂きまして、誠にありがとうございます。本日の会議の進行を務めさせていただきます、政策部長の中村と申します。よろしくお願ひ致します。

それでは、開会に当たりまして伊藤会長からご挨拶をお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

2 あいさつ

(会長)

<あいさつ(略)>

(事務局)

伊藤会長、ありがとうございました。

本日の会議資料の確認をさせていただきます。事前にお送り致しました資料は、次第と資料の1から資料の3まででございます。また、本日お配りしました資料は、資料4から資料10でございます。不足等ございましたらお申し出いただきたいと思ひます。よろしいでしょうか。

では、ただいまの委員は16名です。定足数に達しておりますので、これより議事に入らせていただきます。

それでは、今年度新たに審議会の委員にご就任いただきました方もいらっしゃいますので、改めて委員の皆様のご紹介をさせていただきたいと思ひます。

<各委員紹介(略)>

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

<事務局紹介(略)>

3 議事

(1) 第2次三次市総合計画の検証内容について

(事務局)

ここからは議事に入らせていただきます。伊藤会長、よろしくお願い致します。

(会長)

最初に、審議会規則第10条第3項の規定に基づき、本日の会議録の署名委員を指名させていただきます。ご出席の方々のうち、箕田 英紀委員と麓 知子委員に議事録署名委員をお願いしたいと思いますので、よろしくお願い致します。

それでは、お手元の議事次第に沿って進めたいと思います。

まず、議事次第の(1)第2次三次市総合計画の検証内容について、事務局から資料の説明をお願い致します。

(事務局)

<事務局説明(略)>

(会長)

資料が大変多く、また、各資料の相互の摺合せが十分でないところなどがあったかと思えます。したがって、素朴な疑問でも結構ですので、今後の総合計画の見直しに反映できるような視点からご意見を伺えればと思います。

(委員2)

PTA連合会の代表として、この会に初めて参加させていただいています。こういった検証作業をされていることを初めて知りましたが、市の広報紙等でも紹介されているのでしょうか。

(会長)

庁内検証の結果やアンケート調査結果、第三者評価など、既にホームページ等で公開されているのでしょうか。

(事務局)

現在、庁内で資料の整理をしているところで、議会の全員協議会等では、ご報告させていただいていますが、今後、ホームページ等への掲載をさせていただく予定です。

(会長)

今後、総合計画の素案等ができましたら、ホームページ等で公開し、パブリックコメントでご意見をいただく場がありますが、本日ご説明いただいた検証内容についても是非紹介していただき、市民の皆さんの議論や関心を呼ぶような仕組みができればと思います。

アンケート調査結果では、市民の満足度や中高生の地域に対するイメージ度については前回より向上しています。一方で、愛着度や定住意向が高まっているかという点、必ずしもそうではない結果となっています。せつかくのイメージアップを市民の愛着度や定着度へどうつなげていくかという課題もあろうかと思えます。

(委員13)

私も、初めて参加させていただきます。資料4の指標の中で、学力の定着状況の指標がありますが、現場の学校の教員の方々が一生涯懸命頑張っておられる中で、成績の順位があまり良くないのはどうなのかなと思いました。目標値として、県内5位以上を示されていますが、何

校中の5位なのでしょうか。

(事務局)

23市町中の5位という数値になります。平成23年度に策定した「みよし教育ビジョン」にも掲げており、総合計画の指標にもさせていただいています。

(委員10)

アンケート調査結果のまちへの愛着度や定住意向について、川地中学校区の評価が高くなっていますが、皆さんがまちをどのように評価されているかという関心をいただきました。

(会長)

市民アンケートの地域別の結果については、標本数が27ということで、統計的に見た際に、有意性があるかどうかは慎重に判断しなくてはいけないと思います。合計で690の方が回答されていますので、市全体としての傾向は表れていますが、地域別に見た際には、やはり注意をする必要があろうかと思えます。

(委員5)

アンケート調査結果の市民の幸せ度に関する部分で、不満と感じる際に判断する項目について、「所得・収入」については個々の感じ方で変わると思うのですが、「精神的なゆとり」や「地域のコミュニティとの関係」については、前回よりも満足度が減り、不満度が高くなっているということが見てとれます。具体的にどういった精神的なゆとりがあるのか、わかれば教えていただければと思います。

(事務局)

個別の内容について分かりかねるところはありますが、総合計画の見直しに当たって、19の住民自治組織の皆さんに、地域まちづくりビジョンの取組状況や今後5年間でどういった課題があるのか、どういった地域にしていきたいのかといったご意見を伺ってきました。いただいたご意見を分析しながら、今後の見直しを検討していきたいと思えます。

(会長)

あくまで仮説ですが、37ページを見てみますと、高齢者の幸せ度が一見高そうに見えますが、ばらつきも大きい気がします。周囲に家族がいて、話す人が近くにいる方もいれば、一人暮らしで周囲にあまり話をする方がおられない方もいらっしゃると思えます。あるいは、病気の方もおられると思えますので、そういった方々に対するケアも今後、必要になってくると考えられます。

(委員1)

資料3の中で、仕事づくり分野の「女性の起業の支援」の項目については、星マーク3つで評価されています。実際には、どういう形で支援されているのでしょうか。起業が増加しているのか、また生業として成り立つものになっているのでしょうか。

農業関係で言えば、農業の法人化が進んでいるのかもしれませんが、農家の担い手がいない状況の中で、その支援の仕方をどうしていくのか、法人化が上手くいかなかったときに誰が責任とるのか、そういうところも含めて、考えていく必要があろうかと思えます。

また、「職員の定員管理の徹底」については、職員の定数は必要最低限に抑えられていると

ということで、星マーク4つの評価が付いていますが、職員の定数は何人が正しいのか、現状はどうか、その辺を私たちは全く知りません。そういう状況の中では、なかなか評価はできないものと思います。

また、行政運営と広域連携の件で言いますと、今回の災害で、ダムが放流されたことについて、地域には情報が入ってきませんでした。インターネットで調べてようやく分かったような状況です。

また、このアンケート調査の中で、「まちづくりを進めていく上での要望・意見」の行政に関することとして、「無駄な公共工事はしないでほしい」「市職員の意識や資質の向上」などが最も多い件数となっています。こういったことも考えていただきたいと思います。

(委員14)

関連の質問になりますが、今回の資料2の31ページですが、市民アンケートを2,000名の方に配布され、回収率が34.5%とあります。残りの65%近くの方の意向はここではわからないこととなります。アンケートに回答された方については、市政に関心を持っておられる方だと思いますが、その他の無関心層の方の考え方が分からない中で、アンケートだけで評価するのは難しいのではないかと思います。その点の考え方はいかがでしょうか。

(事務局)

女性の起業のことや農業の法人化の評価についてですが、今日までの評価ということでお示しさせていただいています。今後の5年間、こういった方向性で取り組んでいくのかは、庁内等でも議論しておりますし、審議会でも議論していただきたいと思います。

(事務局)

貴重なご意見をいただきありがとうございます。農業の法人化についてですが、現状の総合計画では、農業法人化の促進ということで、現在取組を進めているところですが、委員からいただいたご意見を踏まえ、現状と照らし合わせながら、見直すべきことは見直していきたいと考えています。

また、女性の起業支援については、「女性が働きながら子育てできる環境日本一」をめざし、総合計画にも位置付けて取り組んでいるところですが、実際の取組状況や効果について、資料が必要であればお示しさせていただきながら、ご意見をいただければと思います。

職員の数ですが、何人が適正規模なのかということをお示しするのは難しい面があります。本市の職員数(医療職を除く)については、合併時から今年の4月までで約200名を減員し、定員計画では561名を基本の形として進めており、職員の人件費についても着実に減額しております。臨時職員や嘱託員の方々にもご協力いただきながら市行政を運営しているところですが、今後は、平成32年から始まる会計年度任用職員の制度を踏まえながら進めていきたいと思っています。

災害時のダムの放流については、国土交通省が水位状況を見ながら調整されているところですが、ホームページで状況を確認することはできますが、市民の皆さんにお知らせする方法として、サイレンが考えられるというような状況ではあります。

(事務局)

一般的に、無作為抽出のアンケートで3割以上の回答があれば、一定の有意性があるとされていますが、無関心層の方のご意見をどのように把握していくかは重要な課題だと思っております。市としては、毎年度、地域づくり懇談会を実施し、各地区からご意見を伺っています。

し、また、総合計画や検証内容等について、しっかりと発信をすることで、市民の皆さんに知っていただいた上で、様々なご意見をいただくことが重要だと思っています。また、今後、総合計画の素案等につきましては、パブリックコメントという形でホームページ等に掲載をし、多くの方のご意見が出やすいような工夫をしていきたいと考えています。

(会長)

アンケートの場合、男女別や年齢別の構成について、実際の市民の構成状況と回収後の状況とがどの程度一致しているか点検する手法があります。市民全体を縮小化（ミニチュア化）できているかどうかを確かめながら数字を解釈していく必要があるかと思います。ただ、どうしても全市民対象に全市民が回答できる状況ではありませんので、設問ごとに、必ずプラス・マイナス数%の誤差が生じることはやむを得ないという理解の上で、解釈をしていく必要があるかと思っています。

(委員8)

資料3の13ページ「スポーツ・文化」の項目で、「生涯スポーツの指導者の育成」については、評価が星マーク1つということになっていますが、自分と関わりが深いので関心があるところです。市の体育協会の組織がどのように活動しているのかということや市として生涯スポーツに対しての道筋をどのように考えていただいているのかと感じています。また、スポーツや健康づくりに関して、意識が低い方々をどのように取り込んでいくかということについても、各コミュニティの活動にもつながる面があるとは思いますが、考えていければいいなと思っています。

(会長)

今のようなご意見を総合計画の見直しに是非反映させていきたいですし、単にスポーツの振興という面だけではなく、健康づくりという面からも、地域一体となった保健分野の取組に結び付けていければ良いかと感じました。

(委員2)

資料3の11ページ「活力と信頼の学校づくり」というところで、「いじめ認知解決100%、不登校ゼロに向けた取組の強化」は星マーク3つと評価されていますが、子育てしている世代としては、どんな状況なのかなと感じたところです。

(会長)

第三者評価については、市役所庁内の検討結果やアンケート結果を通して、第三者から評価いただいたということですので、突き詰めていけば、様々なご意見が出てくるかと思います。今後、総合計画の見直しを進めるに当たって、今のようなご意見をいただければと思います。

それでは、一旦ここで区切らせていただき、後程、議事(2)の説明をお伺いした後、議論していきたいと思っています。

(2) 第2次三次市総合計画の見直しについて

(会長)

それでは、議事(2)第2次三次市総合計画の見直しについて、事務局から資料の説明をお願いします。

(事務局)

<事務局説明(略)>

(会長)

先程、議題(1)で様々な基礎資料が紹介されましたが、人口推計や住民自治組織との意見交換の内容等を踏まえた上で、資料7や8を整理され、ご紹介いただきました。先程のような議題(1)での資料を踏まえた皆様方のご意見が、資料7、8に反映されているかといった視点から、ご審議いただけたらと思います。

(委員7)

半月前ぐらいに日経新聞でコンパクトシティに関する記事が特集されていました。自治体で居住区域を定めるような計画を作っておられる、あるいは検討されている自治体が、予想より多かった気がしていますが、三次市もこういった計画があるのでしょうか。三次で暮らしたいという思いから、住み慣れた地域で住み続けたいと思っておられる方も多いと思いますが、一軒しかない集落もあります。大雨などの災害があった際の見守りや、道路の復旧・整備などの課題もあります。住み慣れた地域で住み続けていくという方向性か、あるいは居住区域を定めていくという方向性なのか、いかがでしょうか。

(事務局)

コンパクトシティあるいは地域居住の誘導に関する質問ですが、これについては、難しい課題であると捉えています。現在、市としては地域の拠点づくりに取り組んでいるところで、各地域の特性や個性を活かし、青河地域や川西地域の取組など、地域ごとの特色のあるまちづくりを進めているところです。市として、コンパクトシティのように、どこか地域へ誘導し、そこに集約していくといった取組はしておりませんが、今後、地域がどうあるべきかという議論はしていく必要があると考えています。

(会長)

この課題については、第1回会議のときにも同じようなご意見が出たかと思います。もちろん、個々の取組により、定住の促進や人口の維持に努力されるのは当然だろうと思います。一方では、厳然とした人口推計がある中で、一旦その傾向が出てしまうと、かなり早いうちに結果が出てくるというのが人口の流れです。したがって、個々の集落での取組は当然重要ですが、一方では、3年、5年、10年くらいの期間を考えた取組についても、議論していかなければいけないと思います。

この課題については、緩やかな集住と言いますか、介護や医療のようなサービス・産業が中心となってくる世の中については、ある程度、人が集まってくることは避けられないと思います。集まった中で、自宅の維持管理に通ったり、近くの田畑の作業に向かうということも、今後は考えておく必要があると思います。今後、市の方でも議論していただければと思いますし、現実として、こうした厳しい議論をしていくことは避けられないと感じています。

(委員13)

庁内検証やアンケート調査、第三者評価等の資料を踏まえ、この審議会で各団体の代表が集まって議論できていることが素晴らしいと感じています。これから審議を重ねて、意見を出していくことになると思いますが、出来上がったものが、市民にどこまで浸透でき、オール三次で取り組んでいけるかどうかで、三次の更なる発展につながってくると思います。市議会議員

の方々を始め、市民が一体となった取組が重要で、しっかり勉強しながら、現場で感じていることをこの総合計画の中に盛り込んでいけるようにしていきたいと考えています。

資料3の中で、観光の分野について、「観光施設等の連携の強化」の評価が星マーク2つですが、現状の取組として、観光キャンペーンという形で市がリードしながら、市内の主だった施設が連携・協力し全国にPR活動をしている状況ですので、厳しい評価だと感じました。

「外国人観光客の受け入れ体制の整備、誘致の取組強化」についても評価が星マーク2つですが、確かに20年前というのは、海外から日本へは450万人、日本から海外へ1,200万人行かれているという時代がありました。観光立国日本を提唱されて、2020年には海外からの訪問客を4,000万人めざすということで、行政と一緒に中国や韓国、台湾へ営業し、三次市へも少しずつ流れができてきているところです。また、外国人観光客の受け入れアシスタントの取組も進め、市の観光パンフレットや看板等も、多言語に対応できるよう作成してきました。

「観光大使など多様な手段による観光・交流情報の発信機能の強化」については、星マーク1つという評価ですが、他の地域では地元の歌手等を活用して取り組んでおられますが、三次ではメディアを活用して、去年はタレントのいとうあさこさんやはるな愛さんに来ていただき、全国にPRをしていただいたところです。

また、JR三江線の廃止を受け、ピンチをチャンスと捉え、廃線後の三江線を観光資源にしようとして一生懸命取り組んできたところ、たくさんの方に来ていただくことができました。皆さんの知恵を発揮して頑張っていけば、三次は日本一になると思います。

人口増に向けて頑張っている地域もあり、島根県邑南町では「半農半X」という取組を全国に発信しながら人口増を図っておられるところです。当然、財政的な問題がありますので、行財政改革に取り組みながら、三次のためになることであれば、予算をかけるところはかけていく必要があろうかと思っています。

(会長)

星マーク1つや2つは、おっしゃっていただいたとおり、頑張っていく必要があるということですので、今後の計画に是非反映させていただければと思います。

(委員17)

小さい子どもを育てる親としては、市内の小児科医が減っているという状況に不安があります。同世代の保護者の中でもそういった話が出ているような状況です。

(会長)

大変難しい問題で、市単独の問題ではない問題です。

(委員15)

医師を中山間地域に積極的に配置する広島大学の「ふるさと枠制度」があります。小児科や産婦人科等へ何人配置するという詳細は分かりませんが、1年間に10人が配置され、それが10年間続くと最大規模で言えば100人の計算になり、中山間地域だけでは捌き切れない数になるとも言われていますので、今後の医師の確保については、私自身としては期待しているところです。また、地域医療連携推進法人備北メディカルネットワークが設立され、大学等とも連携・交流しながら医師の育成・確保に取り組んでいるところですので、全く希望がないわけではないと思っています。

(委員2)

資料7の3ページに、「子どもの未来応援宣言に基づく事業の推進」とありますが、パンフレットをいただいて中身を拝見すると、「こういった取組があるんだね」という感じで理解はしますが、「実際にはどんなことをしてくれるのだろうか」と思いました。「私たちは、力を合わせて子どもたちの未来を全力で応援することによって、三次市が『いつまでも住みたい地域、いつかは帰ってきたい地域』となることをめざします」とありますが、親御さんや地域の方にとって、もっと身近な言葉で、分かりやすく、掘り下げた内容を紹介されたら良いのではないかと思います。

(会長)

様々な行政サービスや施策、事業等が行われている中で、どれだけ予算を使ったのか、あるいはどれだけものを配ったのかということだけではなく、具体的な成果や行動に結びつけていくということが重要です。施策、事業等の評価や点検を行う際には、その点を押さえながら考えていく必要があるかと思えます。

(委員15)

保健、医療の分野については、比較的評価をいただいておりますが、現場は必ずしもそうではないのが実情です。高齢者の単独世帯についてですが、少し前の情報にはなると思いますが、65歳以上の単独世帯は、おそらく三次市・全国ともに17パーセントくらいの割合だったかと思えます。ある調査で、心不全で入院されていらっしゃる患者を対象に幸福度をアンケートしたところ、単独で暮らしている方と世帯で暮らしている方の幸福度の数字は変わらないという結果になりました。この幸福感には、成功経験である健康観と経済性の指標が大きく関与しているのですが、高齢者の幸福感については、必ずしも成功経験だけではなく、地域性が関係していると思っています。ここを突き詰めて考えていく必要があると思っています。

先日、神奈川県知事の講演を聞く機会があり、「未病」についてのお話を伺いました。「未病」とは、健康と病気の合間のことを言いますが、疾病の予防的な概念だけではなく、「未病」に対する様々なアプローチが必要であるということでした。産業界でも取組をされているようで、非常におもしろい考え方だと思うと同時に、自助、共助、公助という考え方が普及する中で、改めて、自助、互助が大切であると感じました。「未病」という考え方からすると、ここまでが自助で、ここまでが互助、公助という線引きをするのではなく、連続とまではいかないまでもオーバーラップしながら、自助を行うにあたって公的システムや自分で自分を律しやすいような環境・仕組みづくりが必要であると思えます。そうでなければ、なかなか自分で自分の健康をしっかり守っていくことは難しいと思えます。

また、コンパクトシティの考え方については、実際に、医師会の中でも話が出ているところで、市の開業医の高齢化が進む中で、市内の奥地に往診するということは難しくなってくるかと思えます。そういった中で、コンパクトシティの考え方についても話題になっているのが現状です。

(会長)

いずれも重要なご指摘だと思います。

(委員10)

民生委員の立場として意見をさせていただきますが、今、高齢者だけの世帯も増えてきている状況で、高齢者が安心して暮らせるまちづくりが重要であると考えています。社会福祉協議

会や市のほうでは、定期サロンを立ち上げ、各地域で取り組んでいきたいと思っておりますが、特に街中には集会所等の場所がない地域が多くあります。今、空き家の増加が問題になっていますが、そういった地域については、市の援助をいただき、空き家を活用して取り組めないかと考えています。

(会長)

今のようなご意見については、国家戦略特区といった地域からのボトムアップ型・提案型の制度を活用して、実験的に行いながら、全国の中でも先導的な事例になるようなご提案であると思われました。

また、先程の安信委員のご意見に関連して、アンケート調査については、年齢別や男女別の幸せ度・満足度の結果については、年齢別あるいは男女別のばらつき度を見ていただいた際、ばらつきの多い項目については、政策を分けて対応することが必要になってくるかと思いません。

(委員1)

防災について、今回のような豪雨については想定していなかったことだと思いますが、おそらく今後、何年に1回もしくは毎年、こういう災害が起こるような時代になっていると思います。今回の災害の対応について、市の担当者によって対応の仕方が全く違ってきます。そのあたりの改革が必要で、みんなと情報が共有でき、少なくとも市の職員間では共有できるような体制について、見直しの中にも反映していただきたいと思えます。

仕事づくりの分野について、先程、起業支援について質問させていただきましたが、女性の起業が増えている中で、なぜ女性に限った支援でなければならないのか、また、商工会議所でも同じような支援をされているようですが、なぜ商工会議所と行政が連携されないのか疑問に思っています。

農業法人については、行政が主導で農業法人化を推進されていますが、そこで働いている人は幾らもいません。農業があるから人は地域に住んでいるのであって、農業法人化が進み、個人が農業をする必要がなくなれば、次の世代の方は住まなくなるのではないのでしょうか。また「小規模農家であっても、楽しく農林畜産業等ができるまち」という施策がありますが、農業の法人化の推進とは相反するものではないかと感じました。

空き家の問題について、人口が一人でも増えると、市には交付税が入ってきますが、地域には、人が何人増えようが何も入ってきません。定住のために、地域として空き家を整備しようとすると、300万円から400万円という高額なお金がかかり、その経費を家賃で回収できるものではありません。人口を増やすためには、地域の受け入れ態勢に対する直接的な支援などを考えていただきたいです。

(事務局)

貴重なご意見をいただきありがとうございます。今いただいたご意見や地域の実際の状況を踏まえ、総合計画の中で見直したほうがいいところについては、この審議会で議論いただき、審議会としてまとめていただければと思います。

この総合計画はまちづくりの総合指針でありまして、最終的には議会の議決をいただき、最高位の計画に位置付けるものです。より良い計画ができるよう、皆様のご意見をいただきながら、市としても課題の把握や対策を考えていきたいと思えます。

(委員14)

今、未婚の男女が非常に増えています。婚活の促進の取組をしているのですが、なかなか人が集まらない状況があります。行政のほうでも、結婚を進めていかれるような取組も必要かと思えます。個々の考え方があるので、難しい面もあるとは思いますが、結婚が進んでいくようなまちであれば、人口も増えてくるのではないかと思っています。是非、この総合計画の中に、結婚の推進というような項目を入れていただき、行政としても取り組んでいただきたいと思えます。

(会長)

地方創生を機に、人口そのものに関心が高まっている傾向がある中で、個人の価値観に関する問題で扱いが難しいところがありますが、こういった婚活の取組については、今まで行政が直接関与することはなく、県のほうでは「こいのわ」といった取組をされています。個々の市町での取組にも限界があるということで、そういった取組と連携するという方法もありますし、民間でも「街コン」のような取組をされていましたが、地域としても盛り立てていくことはできると思えます。

(委員6)

資料3の10ページに「併設型中高一貫教育校の誘致活動の推進」とありますが、私自身3人の子どもが大学に通っているのですが、もっと早く実現していればよかったという思いがあります。商工会議所の(故)前川裕佑さんが中心に誘致活動をされていたと思いますが、素朴な疑問として、なぜもっと早く実現できなかったのでしょうか。

(事務局)

本市においては、小中一貫教育を推進しているところで、中高一貫教育校の誘致については、前川さんや商工会議所を始め、市や議会、様々な団体がオール三次で取り組んだ成果であります。

総合計画の戦略にもありますが、内なる力をいかに引き出し、外なる可能性をいかに活用していくかで中山間地の拠点都市・三次の拠点性を高め、市民の皆さんがしあわせを実感しながら住み続けたいまちをつくっていきこうと取り組んでいるところで、外なる可能性として中高一貫教育校の誘致を活かしながら取り組んでいきたいと思っています。県下では、公立の中高一貫校としては2校目で、実現した時期については、満足いただけていないかもしれませんが、市民の皆さんの力・成果の賜物で実現できたものと思っています。今後、本市の拠点性をさらに発揮して、子どもたちの可能性を伸ばし、希望を支え、チャレンジを応援できるような教育を進めていきたいと思えます。

(会長)

前川さんには何度かお会いしたことがありますが、数十年前に、ミヨシ電子の社員の子どもの教育が疎かになってはいけないということで、社員の子ども向けに塾をスタートされ、今では人材が地域の宝ということで大きく広げられたことが、この結果に結びついたので思えます。そういったご遺志を皆さんで受け継いでいければ良いと思えました。

(委員5)

森林組合に所属していますが、アンケート調査結果の中で、「美しい山、川、風景があり自然が豊かである」という項目では70%以上の満足度があるという結果になっています。市内

の面積の約70%が森林ということで、私たちも山に入って調査や作業などしていますが、荒廃したり持ち主が不在になっている山林が多く、なかなか森林に関心を持っていただくことができていない状況にあります。資料8にも記載されているように、新制度導入による森林経営管理の推進ということで、国会でも可決され、新たに始まることになるとは思いますが、所有者が不在になっている森林については、行政と連携しながら適切に管理していければと思います。一方で、個人情報等の関係で、所有者の情報等の把握については難しい面もありますが、改善できるところは改善し、新たな制度を踏まえた取組を進めていければと考えています。

(会長)

単に森林環境保全という面だけではなく、固定資産税の問題も含め、難しい課題であると考えます。

(委員10)

昨今、国の問題として、「8050問題」が取り上げられていますが、高齢者の親と働いていない中高年層の子どもの生活について気になっているところです。今後、三次市としても対応が必要となってくるのではないかと感じています。

(委員2)

関連して、周辺部に住んでおられる高齢者が買い物などに出ようとした際、免許証を返納された後は、タクシー代やバス代が負担になっている状況があります。何らかの形で支援ができたらと思います。

(会長)

介護、医療もそうですが、家族での対応や地域での支え合いが重要になってくると思います。それだけでは限界もありますので、何らかの仕組みを検討していかなければいけないと思います。

(委員21)

私は広島市内に住んでいますが、私から見て三次市は、非常に子どもに対する福祉が充実していると感じています。一方で、医療等に対する不安があるといったことも耳にします。

アンケート調査の結果ですが、今回は回収数が690で、前回よりも回収数が下がっておりますが、この傾向はどこの市町でも見られるもので、どちらかというが無関心層のところに関係しているかと思えます。そういった中で、子どもの予防接種率は100%に達しているのでしょうか。自分や自分たちの子どもに関わることにしても充足されていない方が多い中で、690という回収率であれば、そういった時代の流れなのかなという感じもします。

アンケート調査の中に、就職の機会がないから住みたくないという中高生の意見があったかと思いますが、三次市の失業率は把握されているのでしょうか。そういったことが原因で、三次に住みたくないと思う人が多いのであれば、改善する必要があると思いますが、もしかしたらそうではない可能性もあります。と言いますのは、当大学には三次市内からたくさんの若者が進学されており、その学生たちは、三次に就職したいと言って、建設関係の職種を中心に、かなりの確率で三次に帰る学生が多いのが現状です。

人口の推移についてですが、高齢者層の数はあまり変わっておらず、15歳から64歳の層の数の割合、つまり働いている層の数が非常に減っているように見られます。その原因として、働く場所がないのか、それとも三次で働きたいと希望している人がいないのかといった原

因が考えられるかと思えます。一方で、15歳未満の人口はあまり減っていませんので、出生率の影響はあまり考えられないと思えます。ご自身の意思で結婚しないということを選択される人が多いような話も聞きますが、それでも子どもの数は大きく減ってはいないということから考えると、他の市町と比べると三次市の将来は明るいものではないかと思えます。

今日、いろいろな方のご意見を伺って、今回の総合計画の見直しに必要なことは、小さな事項ばかりに目を向けるのではなく、大きな視点から、三次がどういう方向になってほしいのか、人が何万人になってほしいのか、学力のある人が多いまちになってほしいのかといった大きな方向性を、審議会として打ち出されたいいのではないかと思います。

私の個人的な感想ですが、三次の高校生の学力は非常に高いと感じています。周りの保護者の方にも話を伺いましたが、小学校から中学校までの学校教育は、他の市町に比べて非常に充実しているということを誇りに思っていたきたいと思っていますし、その質を絶対に下げないほうが良いと強く思います。そういった、絶対を守るべきこと、大きな指針のようなものを皆さんで考えたいいのではないかと思います。三次の基礎教育力の強さや介護難民がいらっしやらないといったことは素晴らしいことで、新しい視点も大切ですが、今の力を落とさないということも重要であると思います。今後、私が広島から足を運びたいくなるような三次であっていただきたいと思っています。

(会長)

大変心強いコメントをいただきました。もちろん、デメリットを減らすということも必要ですが、メリットをさらに伸ばしていくことも重要だろうと思います。

予防接種や特定健診等の健診率、失業率、求人倍率等のデータがあれば提供をお願いしたいと思えます。

アンケート調査の結果と予防接種や特定健診等の健診率を比較するという視点は、おもしろい視点だと思えます。

求人倍率、失業率については、ハローワークのほうでは市単位で把握できると思えますが、おそらく求職者に対する求人倍率については、広島県は今、47都道府県のうち1、2位ぐらい高い数値だと思えます。しかしながら、いわゆるミスマッチも多いのが現状だと思えますので、このミスマッチをどう埋めていくのかも今後の課題だと思えます。

(委員19)

備北地域では、医療や介護など他職種の方で構成する保健対策協議会があり、感染症等について議論をしています。予防接種の接種率については、三次市は90%台ではありましたが、100%には達していない状況で、県内の順位を見ても、三次市や庄原市については、上位ではありませんでした。感染症に関する専門の先生方とやかに予防接種率を高めていくかということを議論しているところです。

また、全国に先駆けて、地域医療連携推進法人を作っておられ、地域の限られた資源を活かしながら、他職種間で役割分担をしながら取り組んでいることは、この地域の誇らしい強みだと感じています。

(会長)

今おっしゃられたような地域医療連携推進法人のような取組についても、是非、総合計画の中でも取り上げていただければ、広報の一つとしてイメージアップにも役立つと思えます。

(委員9)

商工会を代表して出席させていただいています。商工会も会員が減っており、行政の支援を受けながら、何とか維持しているのが現状ですが、これからはやる気のある会員を重点的に指導し、育成していこうということで取り組んでいるところです。

商工会がある地域は、周辺部の地域になりますが、その実情として、周辺部の集落に20軒あった家のほとんどが後継者がいらっしやらないといった理由で、空き家になっています。そういった状況の中で、田んぼについては集落や法人によってなんとか維持していますが、畑は荒れ放題になっているような状況があります。放置家屋も増え、いずれは、地域が草と放置家屋で住めなくなるのではないかという危惧があります。そういった状況にならるように、家屋を整備する時には、補助金などの支援も考えていく必要があるかと思えます。

教育に関してですが、今は自由学区制度によって、学校を選ぶことができますが、周辺部の学校から人数の多い学校へ行かれた場合、周辺部の学校は維持ができなくなります。周辺部の学校を残すのであれば、その点を含めて考えていく必要があると思えます。

(会長)

そういった難しい問題も含めて考えていく必要があるかと思えます。

それでは、他にご意見がないようですので、本日いただいたご意見を踏まえ、先程ご紹介したように、具体的な見直し作業に入っていきたいと思えます。本日のご意見等については、議事録等でご紹介させていただくことになるかと思えます。

それでは、事務局にお返し致します。

4 閉会

(事務局)

長時間にわたりまして熱心ご議論いただきまして誠にありがとうございました。本日いただいたご意見につきましては、事務局で整理をさせていただき、次回以降の審議会等でご議論いただきたいと思いますと思っております。

次回の会議につきましては、8月23日(木曜日)9時半から12時で開会させていただければと思えます。議題につきましては、本日いただきましたご意見を踏まえて、総合計画の骨子(案)を事務局として準備させていただき、委員の皆様にご審議いただきたいと思いますと思っております。

今後の会議におきましても、皆様に忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。本日は誠にありがとうございました。